

＝支部だより＝

北海道支部

北海道支部講演会
「雪崩から身を守るために」報告

2011 年 11 月 15 日に雪崩事故防止研究会と共催で、「雪崩から身を守るために」という講演会を開催した。登山、スキー、スノーボードなどでの雪崩事故防止のために続けられている講演会で、雪氷学会員がこれまでも活動に協力してきた。発足 5 シーズン目を迎える北海道支部雪氷災害調査チームの情報発信の場ともなってきたことから、本年は共催で開催することとなった。本年度の講演会も札幌市内で夕方から開催され、130 名ほどの参加者があった。仕事帰りの参加者とともに、若い年齢層の参加者が目立っていた（図 1）。講演者から参加者への問いかけによれば、多くの参加者がスキーヤーやボーダーで、雪崩について常に関心を持っているようであった。

秋田谷英次氏による「雪崩発生メカニズム—雪

をみて危険を知るには—」と、昨冬の雪氷災害調査チームによる立山・国見岳雪崩（山口 悟氏、佐々木大輔氏）およびニセコアンヌプリ（荒川逸人氏）雪崩事故調査報告がおこなわれた。秋田谷氏の話では、自ら撮影された多くの降雪や積雪の写真が紹介されており、雪の知識を持っておられる参加者には大いに参考になったのではないだろうか。国見岳での事例報告では、研究者の立場で山口氏が SNOWPACK による雪崩危険度予測の現状を説明した。実用性をさらに高めるためには、雪氷災害調査チームのような研究者と山岳ガイドの協力がいかに大事かということを力説された。一方、同じ災害現場をガイドとしての立場でサポートした佐々木氏の発表は、現場の豊富な写真とスキーヤーとしての臨場感あふれる説明であった。参加者に最も近い視点であったため、好評であった。ニセコアンヌプリの雪崩は、調査によって事故状況の解明が非常に困難であったことが報告された。災害調査がいかに迅速になされる必要があるか認識いただけたかもしれない。

ウインタースポーツを愛好する多くの若い参加者への情報発信の機会として有意義な講演会となった。雪崩から身を守る助けとなるためにも、更にわかり易い科学的情報発信が研究者には求められる。

((独)森林総合研究所北海道支所 山野井克己)
(2011 年 11 月 29 日受付)



図 1 若い年齢層が目立つ講演会場